

トマト葉かび病

【学名：*Fulvia fulvum* (Cooke) Ciferri】



写真1 葉表の様子



写真2 葉裏の様子

【被害と発生生態】

- ・発生部位…主に葉
- ・発生好適条件…気温が20～25℃で、多湿条件（95%以上の多湿）、晩秋～初春の施設栽培で発生しやすい病気です。

【見分け方】

- ・病斑は、下葉から現れ、だんだん上葉に広がります。
- ・葉の表面が黄変し、その裏側に灰白色の病斑が生じます。多湿時には、葉の表面にもカビが見られます。
- ・病気が進むと、中位の小さい葉にも多数の病斑が見られるようになります。
- ・施設栽培で多発します。露地栽培では実害がほとんどありません。

【対策】

- ・多湿にならないよう、十分に換気をしてください。ハウスサイドのみでなく、天窗の換気にも努めてください。
- ・過度な灌水や密植を避けましょう。
- ・施設栽培では、発病前から予防的に薬剤散布を行うと効果的です。

参考文献

原色病害虫診断防除編2—① 野菜・果菜 ナス科/その他, 農山漁村文化協会